

平成 23 年度 学校評価実施報告書

学校番号 10

学校名 千葉県立若松高等学校

課程名 全日制の課程

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	①学校ホームページの内容を充実させるとともに、在校生及び保護者への連絡の拡充に努めた。本年度、ホームページの更新は適宜実施した。 ②ボランティア活動、近隣異校種交流等を通して地域交流を深めた。 ③内部評価、学校関係者評価をもとに、教育活動における課題の解決に全力を尽くした。	①本校教育活動全般について、より積極的な情報発信に努めていく。 ②地域ボランティア活動、異校種との連携をさらに深めるとともに、地域青少年育成会との協力体制を構築させていく。 ③学校評価の分析と改善について、職員協働のもと学校改善に全力を尽くす。
学習指導	①11月に生徒による授業評価を実施した。その結果、教員が作成した授業の補助教材への評価は高かった。その一方で、分かりやすい授業の展開の希望も多かった。 ②11月に授業公開（授業錬磨の公開日）を行い、近隣の異校種との授業交流を深めた。 ③11月を校内研究授業期間として、全教科の研究授業を実施して授業改善に努めた。	①生徒による授業評価と教員の授業自己評価を複数回実施して、学習指導の改善に努める。 ②授業公開を積極的に実施し、授業改善に努める。 ③研究授業を積極的に設け、教員が相互に授業改善できる機会を多くつくる。
生徒指導	①生活指導において、学年単位での指導を強化して基本的生活習慣や規律の指導を積極的に行った。 ②6月と2月に特別支援教育に関する校内研修会を実施し、特別支援教育への校内体制の拡充に努めた。 ③生徒個人面談は6月に1回全学年で実施した。	①遅刻指導は徹底できたと考えるが、身だしなみの指導や人権教育はさらに徹底していく必要がある。マナー・モラルの遵守についても学校全体で取り組んでいく。 ②特別支援教育に関して、外部機関との連携を強化して校内体制の確立に努める。 ③生徒と向き合う時間を多く持ち、生徒理解に努めていく。
キャリア教育	①1・2年生に対して、6月に進路講演会、1月に本校卒業生による進路体験談を実施した。 ②11月に、1年生に対しては進路に係わる外部講師の講演会、2年生に対しては修学旅行時に人権教育講演会を実施した。 ③保育園実習を本年度は2回実施した。ボランティア活動も特別支援学校、保育園等で実施し、体験学習の充実に努めた。	①進路講演会は継続実施するとともに、進路に対する意識を高めるために、専門学校や大学での体験学習の機会を設ける。 ②国際教養コースを中心として、異文化理解の体験学習の機会の確保に努めていく。 ③保育園実習やボランティア活動を教育活動の中に位置づけ、体験学習を拡大させていく。
特別活動	①生徒会が中心となり、校内美化に生徒が積極的に取り組んだ。 ②近隣小学校において、本校サッカー部生徒が小学生へのサッカー技術指導に取り組んだ。	①清掃や環境美化を再点検し、校内美化に積極的に取り組んでいく。 ②部活動生徒の、地域での体験活動の機会を増やしていく。
特色ある活動	①地域の拠点となっているペットボトルキャップ回収運動を広めることができた。 ②本校独自で、長期（1年）及び短期（2週間）のニュージーランド語学留学を実施し、国際理解教育の充実に努めた。	①ペットボトルキャップ回収運動をさらに活発化させ、地域との連携に結びつけていく。 ②本校の留学制度の点検を行い、国際理解教育の一層の改善に努めていく。

学校評価の公表について (手段・時期等)	・ P T A 広報（6 月号）で保護者に向け公表する。 ・ 年度末に、ホームページを更新して学校評価等を公表する。
-------------------------	---

領域	学 校 関 係 者 評 価 の 結 果	学 校 評 価 の ま と め
学 校 経 営	①学校HPで、教育活動の広報をもっと積極的に掲載することを勧める。 ②学校の教育環境に対して、設備環境の整備を積極的に推進して欲しい。特に清掃を徹底すべきである。 ③学校と地域の結びつきは着実に遂行されていると言える。今後も一層の推進を願う。 ④学校改善に向けて職員が同じベクトルを向くために、学校評価は必要だと考える。	①学校HPの改善をさらに積極的に進め、外部への情報発信を確実にやっていく。 ②学校教育環境の整備に努め、清掃の徹底を図っていく。 ③異校種間の連携をさらに積極的に進め、地域連携を深めていく。 ④学校評価の年次比較を勧め、長期的視野に立って学校改善を進めていく。
学 習 指 導	①生徒の授業評価の結果から、教員の授業改善の指針が示された。この結果をもとに、授業改善を進める必要がある。 ②学ぶことの意義を生徒に理解させる必要がある。学ぶ意欲を引き出す授業展開が必要ではないか。 ③地域の小・中・高の授業や部活動の交流が推進されている。今後も積極的に進めて欲しい。	①生徒の学習に対する取り組みを十分に分析し、指導方法の改善をさらに努める。家庭との連携を図り、生徒の家庭学習の充実を保護者に促す。 ②授業公開を一層積極的に進めて、授業研究、改善に努めていく。 ③地域の小・中・高の連携した学校間交流を一層推進していく。
生 徒 指 導	①遅刻が減り、生徒の基本的な生活習慣は改善されてきているが、登下校の歩行マナーや服装等、規律指導についても強化していく必要がある。 ②自ら考えて、行動できる人間をつくる指導が大切である。 ③生徒指導は保護者の理解・協力が必要である。保護者の考えを理解して指導に取り組む必要がある。	①生活指導体制を再点検していく。通学路の安全については、警察や地域と協力体制を構築していく。 ②生徒との会話を重視し、スクールカウンセラーの導入を積極的に進めて、教育相談の充実に努める。 ③保護者に対して、学校が実践する生徒指導の取り組みの周知・理解を、文書やHPで積極的に情報発信していく。
キ ャ リ ア 教 育	①進路に関わる講演会は充実しているように思われる。保護者に対しても、講演会の機会を積極的に設ける必要がある。 ②地域の人材を活用したキャリア教育を勧めていくことも必要がある。 ③保育園実習やボランティア活動など、地域との協働が充実している。	①生徒や保護者に進路情報を積極的に提供し、3年間を見すえた充実した進路指導計画を立て実施する。 ②開かれた学校づくり委員会等をもとにして、地域から教育的人材を求めていく。 ③高大連携を目標に、教育課程をより高いレベルにもっていく取り組みを勧めていく。
特 別 活 動	①校内美化の意識を全校生徒に広げて欲しい。 ②ボランティア活動に対する生徒の意識は高いと思われる。ボランティア活動への機会を多くつくり、社会体験活動を充実させるべきである。	①生徒会活動をより一層活発化させて、教育活動の充実に努めていく。 ②ボランティア活動への意識向上を推進し、社会体験活動の積極的推進に努めていく。
特 色 あ る 活 動	①地域や学校間の連携は学校運営に非常に大切であるので、今後も積極的に取り組んで欲しい。学校づくり委員会でも手助けをしていきたい。 ②幅広い視野が持てるように、国際理解や異文化理解を教育活動の中で実践していく必要がある。	①本校求める外部人材を探求し、学校教育の中に地域の人材を活用することを積極的に進めていく。 ②姉妹校があるニュージーランドへの留学制度とは別に、全校で取り組める国際理解教育を推進していく。